

# 学校関係者評価報告書より

2020.3 月

倉敷市立倉敷支援学校

## 1 自己評価の報告の概要

- 保護者と教職員を対象にしたアンケート結果では、ほぼ全項目に関して肯定的な評価（A+B が 90% 以上）が出ている。その中で 80% 前後のもの、B の割合が高いものは、「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」「他機関との連携・情報発信」「教育相談」であった。支援・指導の引継ぎや連携については、教員と保護者でずれが生じないように、年度末の懇談時にお互いに確認し、実態表にも記載するようにした。保護者の意向や希望も次担任に確実に伝えるようにする。昨年 87%（A：43%、B：44%）であった「進路指導」については、各学部ともに 90% を超え、改善が見られた。他機関との連携に関しては、個人対応の支援・指導も多く、広く周知しにくい部分もあるが、地域交流等や学校の取組については、学校通信・地域連携便り・コーディネーター便り・ホームページ等で、情報発信に努め、90% を超えて改善が見られた。

## 2 評価委員の評価結果

- 学校として児童生徒の教育に一丸となって取り組んでいる様子が分かる。各学部とも発達段階と学部の指導の重点をおさえて教育活動がなされている。学校・学部でたくさんよい取組をしているが、行事以外のことも、保護者や地域に情報発信をしていくとよい。
- 支援・指導内容や取組については、教員一人一人が専門家としての意識をもつことができているか。

## 3 評価委員の提言

- 学校公開などで、その具体的な様子や内容をしっかりと保護者や地域に知らせていくことが必要である。児童生徒や保護者への対応についても、一人で解決しようとするのではなく、教職員間で共通理解を図って、対応し、保護者に丁寧に伝えていくことを大切にしてほしい。
- 特別支援教育に関する専門性については、合理的配慮や多様なニーズに対応する教職員の指導力や資質向上を目指していると思うが、専門家であるという自負をもって教育に臨んでほしい。
- 保護者は、安全安心を一番に思っているので、学校での様子や状況を適時に正確に伝えるようにしてほしい。

## 4 学校関係者評価を踏まえた改善方策

- 市立であるという利点をいかし、地域の学校との交流や居住地校交流を継続して行い、地域の一員である意識を高める。高等部は、地域型実習や奉仕作業など地域社会に貢献する体験や技能検定など、身につけた力を外部に向けて発揮し、認められる体験を通して、社会参加をめざす主体性を育成していく。社会へ出て生活している先輩（卒業生）の体験や現在の状況などを聞く機会を設ける。
- 医療・福祉・就労等について個のニーズに応じた支援を受けられるように、教職員は、特別支援に関する研修や福祉制度の研修等を、今後も内容を充実させながら継続する。
- 改善点も含めて、学校の方針や取組、児童生徒の活動の様子を、具体的かつ適時に発信し、意見や感想をいただける双方向の情報交換の機会を設ける。